

# エンジニアたちが使う言葉

篠原 秀

英語は世界の共通語になっている。非英語圏の国どうしの人たちが話し合うときにさえ、英語を使う傾向がある。シリコンバレーは、米国にあるので、公用語はもちろん英語だ。しかし、ここでエンジニアたちと付き合っていると、ほかの地域ではあまり聞かれない言葉や独特な表現を耳にすることがある。今回は、シリコンバレーや米国の職場で聞かれる言葉のいくつかを説明する。

## 🖱️ 技術用語

エンジニアの多くは、学生時代から長年にわたり、専門用語や技術用語を使ってきた。エンジニアたちが、ほかの技術者と話をしていると、無意識にこれらの専門用語を使うことがある。ここでは、技術者たちが技術用語を日常に使う例を挙げてみた。

### ● offline

会議中に話が横にそれたり、会議では細かすぎる話が出てきたときに、「このことについては、offlineで話そう」という使い方をする。これは、コンピュータをofflineにして操作するというたとえからきている。

### ● ping

pingは、ネットワーク上にあるリモートのコンピュータが、正しくネットワークにつながっているかどうかを調べるテスト・プログラムだ。パケットを出すピンポンのように跳ね返ってくるので、この名前がつけられたといわれる。

シリコンバレーのエンジニアたちは、ときどき「かつての同

僚にpingしてみる(連絡をとる)」というかたちでこの言葉を使うことがある。

### ● permutation

これは、数学で出てくる「順列」のことだが、エンジニアたちは「組み合わせ」という意味で使うことがある。普通の米国人なら“combination”などの単語を使う。permutationは、エンジニアが使いたがる単語の一つである。

### ● volatile

この単語は、「揮発性がある」とか「気まぐれな」という意味がある。メモリなどで“non volatile”というように使われている。株式についても「あの会社の株は、volatileだ」というかたちで使われることがある。

最近、同僚がある人のことを「volatileだ」と言っていた。人に対して使われた例はあまり耳にしないので、おもしろいなと思いながら聞いていた。

### ● marginal

この言葉は、「辛うじてスペックに合っている」という場合などに使われる。この単語は、エンジニアだけが使う言葉ではないが、エンジニア以外の人たちが日常会話で使うことことはあまりない。

### ● tangent

話が横にそれたりすることを、この単語で表現することがある。これは、エンジニア以外の人たちでも日常生活で使われているが、数学で使われるタンジェント(tan)と同じ言葉だ。

### ● bandwidth

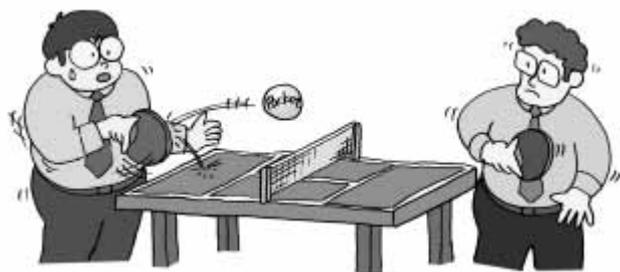
本来は情報量の送受信能力のことだが、人の忙しさに対しても使われることが多い。たとえば、「彼には、あまりbandwidthが残っていないから、彼にこの仕事を頼むことはやめよう」という使い方をする。

## 🖱️ 独特な表現

シリコンバレーに独特なものではないと思うが、普段とは少し違った使われ方をする単語がある。

### ● slip

これは、スケジュールが遅れるときに使われる。slipといえば「すべる」というイメージが真っ先に浮かぶが、「転ぶ」とか



「失敗」するという意味も含まれている。

#### ● powwow

powwowは、「北米インディアンの会合」のことだ。「powwowをやろう」と、くだけたかたちで「meeting」のかわりに使われるときがある。

#### ● short

この単語が動詞として使われた場合は、株を見越し売りしたことになる。普通、short saleと言うが、会話では「今日この株をshortしたよ」というように省略した形でも使われる。



### 短縮された言葉や略語

米国では、どこの職場でも略語がよく使われる。シリコンバレーの企業でも例外ではない。技術用語には多くの略語があるし、日常の会話の中でもよく使われている。

#### ● admin

adminとは、administration(経営、運営、監督)という言葉からきている。シリコンバレーのハイテク企業では、admin部門は、秘書部門に似た役目をしている。普通、社内ではadminという部署があり重役付きの秘書(エグゼクティブadmin)と、その他の秘書係の人たちに分かれる。エグゼクティブ(重役付き)adminは秘書に近い仕事をするが、そのほかのadmin部門の人たちは、会社内のいろいろな部署にいる。たとえば、マーケティング部admin係、エンジニア部admin係とかである。

#### ● co-req

“co-”で始まる言葉は、「一緒に」とか「同時に」とかいう意味を追加する接頭語である。co-reqという言葉はおそらくco-requirementから来ているのだろう。「同時に必要な物」というかたちで使われる場合が多い。たとえば「納品のco-reqは、〇〇である」というかたちで使われる。

ちなみに、「あらかじめ必要なもの」には、prerequisiteという単語が使われる。

#### ● new grad

新卒者のことである。10年ほど前は、新卒エンジニアたちに対する需要は少なかったが、人手不足のいまは、new gradも必要な人材として扱われている。

#### ● IPO

initial public offerの略、会社の株式が公開取引にできることをさす。

IPOにより会社は、一般投資家などからも資本を受けることができ、運営資金などを確保できるようになる。一方、従業員は、オプションで買った株式を一般市場で売ることができる。

#### ● LOI

letter of intentのことで、取引先との契約のステップの一

つである。エンジニアにとってLOIは、自分たちの会社もっている可能性のことでもある。

#### ● AMT

alternative minimum taxのことである。アメリカの税法では、ストック・オプションなど主収入以外の利益があると、複数の方法で税額が決められることがある。AMTで税を払うと税額が増えることになるので、エンジニアたちは、これを払わないような工夫をこらしている。

#### ● PO

purchase orderの略で、発注書のことに対応する。オフィス機器を買うときやコントラクタを雇うときなどに必要な書類だ。

#### ● PTO

personal time offの略。シリコンバレーの企業では、年間の祝日は10日間くらいしかない。週単位で休みをとるときは、このPTOを使うことになる。

PTOは、年間2週間から3週間もらえるのが普通である。同じ会社に長く働いていると、年間に貰えるPTOはさらに増える。シリコンバレーでは、1ヵ月に2回、2週間おきに給料をもらえるのだが、このときにPTOが1時間単位で増えていく。

PTOは、もともとは数時間の個人的な要件があるときに使うためのものであったが、最近ではこのような使われ方はされなくなっている。

#### ● HR

human resourceのことで、日本の会社の人事部に相当する。シリコンバレーの会社では、HR部門が採用から福利厚生など広い分野で活躍している。人材不足になってから、とくにこの部署の重要性が問われるようになり、HR部門に副社長クラスの重役のポストができるようになった。

#### ● VC, VP

venture capital, venture partnerの略。エンジニアたちがベンチャー企業の会社選びをする際、VCの名前を聞くのはごく普通のことである。あるVCの過去の成功例を知り、そこが現在投資している会社に興味をもつエンジニアたちは